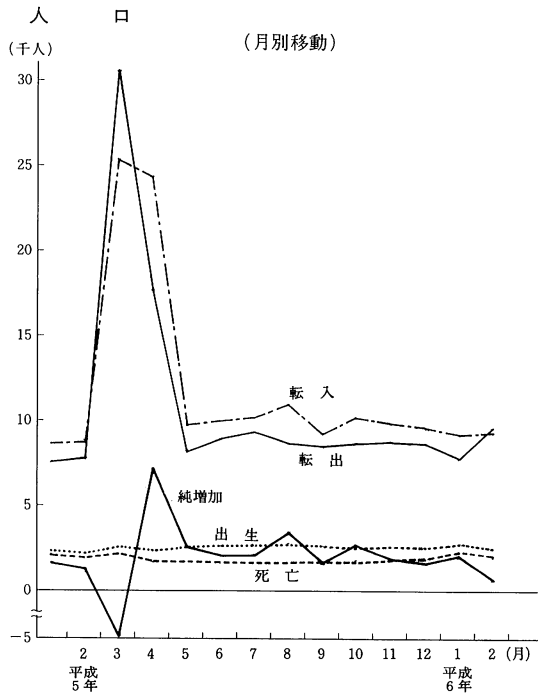
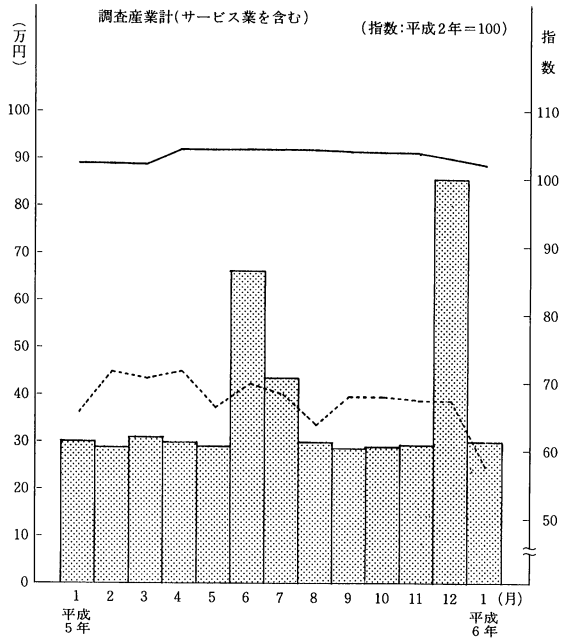


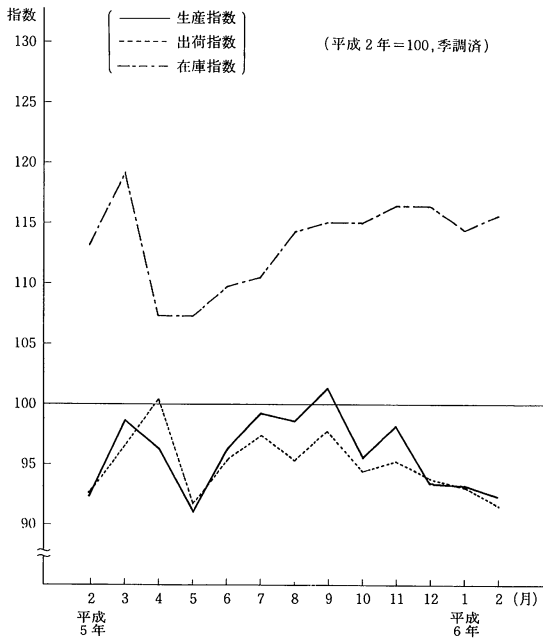
今月の主な動き



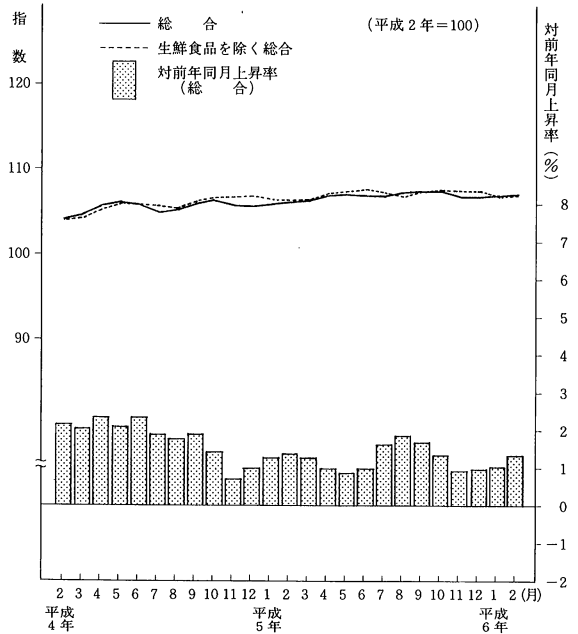
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(3月1日)

本県の人口は、2月中に296人増加し、3月1日現在で2,934,536人(男1,466,723人、女1,467,813人)となった。

内訳は、自然動態で504人(出生2,236人、死亡1,732人)増加し、社会動態で208人(転入9,172人、転出9,380人)減少した。前年同月と比べると21,249人(0.73%)の増加である。

■賃金・労働時間・雇用(1月)

1. 平均賃金の推移

1月の現金給与総額は、調査産業計で306,441円、対前年同月比1.2%増、このうち、きまって支給する給与は288,655円、対前年同月比0.6%増であった。また、このうち、所定内給与は266,199円、対前年同月比1.7%増であり、超過労働給与は22,456円、対前年同月比11.6%減であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比1.1%増であった。

*この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

ある。

市町村別では、増加が11市33町村、減少が9市33町村、増減なしが1村である。

世帯数については2月中に60世帯減少し899,126世帯となった。

2. 労働時間

1月の総実労働時間は、調査産業計で146.2時間、対前年同月比もちあいであった。このうち、所定内労働時間は134.9時間、対前年同月比1.0%増、所定外労働時間は、11.3時間、対前年同月比11.8%減であった。

3. 雇用の動き

1月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.8%減であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(2月)

本県における平成6年2月の“鉱工業指数”(平成2年=100)は、季節調整済指数で、生産が92.3、出荷が91.4、在庫が115.7で、前月比は、生産が1.1%の低下、出荷が1.8%の低下、在庫が1.3%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が0.2%の上昇、出荷が1.3%の低下、在庫が2.2%の上昇であった。

業種別に前月比をみると生産では、鉱業、窯業・土石製品工業、化学工業等が上昇し、精密機械工業、一般機械工業、繊維工業等が低下した。出荷では、鉱業、鉄鋼業、輸

送機械工業等が上昇し、精密機械工業、金属製品工業、電気機械工業等が低下した。在庫では、石油・石炭製品工業、食料品・たばこ工業、化学工業等が上昇し、繊維工業、鉱業、一般機械工業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、非耐久消費財が上昇し、耐久消費財、建設財等が低下した。出荷では、その他用生産財、非耐久消費財が上昇し、耐久消費財、建設財等が低下した。在庫では、その他用生産財、非耐久消費財等が上昇し、資本財が低下した。

■消費者物価指数(2月)

平成6年2月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で107.0(平成2年=100)となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比1.3%の上昇となった。

今月の上がった主な項目……果物6.5%、油脂・調味料3.4%、乳卵類2.9%、衣料2.0%、通信1.5%、穀類1.0%

今月の下がった主な項目……シャツ・下着3.1%

生鮮食品を除く総合は106.8となり、前月比は0.1%の上昇、前年同月比は0.9%の上昇となった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総 合	107.0	0.2	1.3	保健医療	102.3	△0.2	0.4
食 料	108.7	0.6	2.5	交通通信	99.6	0.2	△0.9
住 居	113.7	0.0	2.2	教 育	110.1	0.0	3.8
光熱・水道	101.9	0.0	△1.2	教養娯楽	109.2	△0.2	0.6
家具・家事用品	99.9	△0.3	△1.7	諸 雑 費	103.7	0.3	△0.9
被服及び履物	106.3	0.1	2.4	生鮮食品を除く総合	106.8	0.1	0.9